

## 30 文化芸術振興事業に対する支援措置の強化について

(財務省、文化庁)

### 【内容】

- (1) 地方自治体等の文化芸術振興事業に対する一層の支援を図ること。また、対象分野・対象経費など制度の拡充を図ること。
- (2) 世界の文化芸術の発展に貢献し、魅力ある地域づくりにつながる総合的・複合的な国際芸術祭の取組に対する支援制度の充実を行うこと。

### (背景)

- 平成19年2月、国は「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第2次)を策定し、文化芸術で国づくりを進める「文化芸術立国」を目指し、文化芸術を通じて世界に貢献するなどの基本的視点及び重点的取組事項が決定された。同方針では、文化芸術活動への支援について、中長期的な観点に立って、水準の高い活動への重点支援を行うこと、地域の文化力を広くまちづくりに生かしていくことなどが位置づけられているところである。
- 地域の文化芸術振興の取組を一層推進するためには、文化芸術を担い、支える人づくりや、文化芸術の創り手と受け手をつなぐ役割を担うアートマネジメント人材の育成、地域における文化芸術の力によるまちづくりなどが重要であり、こうした分野への支援の拡充を図ることが必要である。
- また、本県では、平成22年(2010年)8月から2ヵ月間、現代美術を基軸としつつ、舞台芸術も併せて展開する総合的・複合的な国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」を開催した。  
今後は、「あいちトリエンナーレ」を定期的に開催し、愛知から新たな文化芸術を日本・世界へ発信することにより、世界の文化芸術の発展に貢献するとともに、地域の文化芸術振興を図ることとしている。
- 平成23年度予算概算要求において、我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバルに対して戦略的かつ重点的な支援を行う「国際芸術フェスティバル支援事業」が新規で要望されているが、支援先に明示された事業に限ることなく、先進的な取組を行う地域が継続的に活用できる制度としていくことが望まれる。  
また、開催ノウハウに長けた人材の派遣、準備期間を含めた芸術祭全体に対する財政支援等、あらゆる角度からの総合的な支援制度、支援体制への拡充も必要である。

( 参 考 )

あいちトリエンナーレ2010の概要

- テーマ：都市の祝祭 Arts and Cities
- 開催時期：平成22年8月21日（土）から10月31日（日）まで（72日間）
- 事業内容：現代美術を基軸としつつ、舞台芸術も併せて展開（会場の持つ複合機能を活用）  
普及・教育プログラムの展開や祝祭感の創出を目指す
- 会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場他
- 運営主体：あいちトリエンナーレ実行委員会
- 芸術監督：建畠 哲氏（国立国際美術館館長）



キッズトリエンナーレ



会場:愛知芸術文化センター



平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)

《ロボット版『森の奥』》



草間彌生《命の足跡》

○中核的な国際芸術フェスティバルに対する支援制度(平成23年度予算概算要求)

【国際芸術フェスティバル支援事業（3億円：新規）】

- ・アート・トリエンナーレや国際映画祭といった我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバルに対し戦略的かつ重点的に支援を行うことにより、これらを文化芸術の世界的拠点として育成し、世界の文化芸術の水準向上に大きく貢献する。

支援件数2件（横浜トリエンナーレ、東京国際映画祭）